

# アルプス立山の風景



遠くへ行きたい、見たことのない景色に触れたいというのは人の根源的な願望であるようです。人類はアフリカから歩み出て地球上に広がりましたが、日本人はどのような人々が溶れ込んで形成されたのでしょうか、伝承されている西郷さんの肖像画と力士・武蔵丸はよく似た顔立ちですが、秋田県角館市の青柳家で発見された西郷隆盛の写真は肖像画とはまるで違うものでした。歴史の真実はどこにあるのでしょうか。私の顔が混乱したままです。心が易くと見たくなる景色というものがあります。北アルプスの立山連峰です。富山市から眺める立山連峰は悪くはありません。冬の晴れた日の立山連峰は朝日夕日に神々しいまでに輝きます。立山連峰の内ふところには立山黒部アルペンルートを使います。富山市からのルートと大町市(扇沢)からのルートのどちらかを使い、室堂にはいるのです。立山という雄山神社峰本社が建てられている雄山(おやま 3,003m)を頭に浮かべますが、北側に位置する剣岳から南の方角に見える薬師岳までの山々を含めてもあります。これらの山々は古い昔の記憶にありますが、剣岳は夏山からの端緒期にアイゼンを付けて改めて登りました。基地の山小屋からの往き帰りに人に会わなかったのは何よりでした。体力と時間の準備不足でゆっくりと山に漬かれないときには室堂まで出かけて立山の景色をみて付近を散策するのもいいでしょう。夏ならば高山の花々とカヤクグリ、キセキレイ、ライチョウが出迎えてくれます。室堂までの往復の交通料金は富山ならびに扇沢の基地からおよそ1万円かかります。あるバスツアーでは2泊3日でここを通過するコースが設けられていながら2万円で済むといえます。扇沢と室堂を結ぶ平成16年度の立山黒部アルペンルートは11月30日まで運行されました。4月10日~11月30日までの間に立山黒部アルペンルートを使い富山、長野の両方から立山に入り込んだ客数は、103万8千人(前年同期比92%、貸切バスを含む)でした。平成16年度は、雪の大谷イベントの延長展開などで好調なスタートとなりましたが、その後は、記録的な集中豪雨、猛暑、過去最高の上陸数となった台風などの異常気象に加え、アテネオリンピック開催による出控え、さらには10月下旬に発生した新潟県中越地震の影響等によって、低調に推移したといえます。他方、台湾、韓国、中国向け「雪の大谷」ポスターを新たに作製する等、積極的に営業展開した結果、東アジアを中心とする海外からの入り込み客数は、昨年を大きく上回る、4万7千人(前年同期比196%)となったといえます。旅行は人にとって快樂であるようです。写真は10月の立山、室堂付近から。文と写真は甲斐幾太郎(旅行家)

## 日本計量新報

計測と科学  
毎週日曜日発行  
日本計量新報社  
東京都千代田区神田神保町3-11-4  
(近藤町ビル)  
〒101-0054 TEL 03-3295-7871  
FAX 03-3295-7874  
支店 大橋市北区大津庄1-3-10  
〒591-0077 TEL 06-6451-4425  
郵便口座 80140-5-1-12925  
購読料年間 25,000円(消費税別)

第1部

計量記者  
日本を撮る

2005年 謹賀新年